

意見書案第 1 号

イージス・システム搭載艦の導入計画の中止を求める意見書

上記事項に関し、別紙のとおり意見書を提出することについて議会の議決を求める。

令和 3 年 3 月 2 5 日提出

提 出 者 中間市議会議員 田 口 澄 雄

賛 成 者 〃 柴 田 芳 信

イージス・システム搭載艦の導入計画の中止を求める意見書

政府が進めていた陸上配備型の迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」は、住民の強い反対運動と、防衛省のずさんな計画で、配備中止に追い込まれました。

ところが、政府はロッキード社と契約したSPY7レーダーなどの関連システムを解約せず、同システムを搭載する「イージス・システム搭載艦」導入を決定しました。

導入費用は、イージス・アショアの4000億円を大きく上回る5000億円を超える予定です。また、これに維持費などの追加費用を含めれば、1兆円を超える可能性もあります。

コロナ禍のもとで、今、国民の命を守ることに徹するならば、こうした架空の戦争対応よりも、現に生身の人間の命のかかった新型コロナに対する予算に重点を置くべきです。

しかも、このイージス艦搭載のSPY7レーダーは、試作品さえ完成していないカタログしかないようなものですが、もう一つのレーダー候補だったレイセオン社のSPY6は、すでに米海軍が採用を決定し、生産段階にありました。

選定の判断基準も不明瞭です。

こうしたことに加えて、アメリカのミサイル防衛庁長官が来日して、日本の防衛省にロッキード社選定の圧力をかけていたことも判明しました。

防衛省関係部局とアメリカの業界やミサイル防衛庁は、レーダー選定の2018年2月から7月までの6か月間に529回も接触したことも明らかとなっています。

とても、国民の納得のいくものではありません。

こうした「イージス・システム搭載艦」の導入計画は、即時中止を求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により提出いたします。

令和3年3月25日

中間市議会

衆議院議長	大島	理森	様
参議院議長	山東	昭子	様
内閣総理大臣	菅	義偉	様
防衛大臣	岸	信夫	様
外務大臣	茂木	敏充	様